

「自立活動」学習指導案

日 時:平成 29 年 7 月 14 日(金)

2 校時(9:45~10:30)

場 所:小学部 6 年 1 組教室

対象児童:小学部 6 年

男子 1 名

授 業 者:安次嶺 一成

指導主事:今村 清輝

I 研究テーマ

「主体的に活動する力を育む自立活動の実践的研究」

ー乳幼児コミュニケーションアセスメント・指導プログラム(CAP)を活用した授業実践を通してー

II 研究仮説

- 1 自立活動において、教具を通して A 児と教師がやりとりを繰り返すことで、同調・共感関係が深まりコミュニケーションの素地が育つであろう。
- 2 自立活動において、発声や身振りをういたコミュニケーションの指導をすることで、自発的な発声・身振りの意志表出の場面が出てくるであろう。
- 3 課題シートを作成し、関係教師と連携することにより、長期的な視野に立って課題の克服・改善に向けて取り組むことができるであろう。

III 研究テーマとの関わり

平成 29 年 4 月の次期小学校・中学校・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領前文では、「一人一人の児童又は生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。」と新たに明記された。このことから、これからの学校教育においては、変化する社会に向けて、子供たちが周りの人と関わりながらよりよく生きていこうとする意欲、態度、役割意識を育む適切な指導を行う必要が求められている。

特別支援学校の児童は、障害による何らかの学習上又は生活上の困難さを抱えている。困難さを抱えている児童にとって前文で述べた「多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く」ためには、より児童一人一人に応じた支援が必要になってくる。

つまり、障害による困難さの克服・改善をめざした自立活動がより重要性を増してくると考える。

A 児は、小学部 6 年生のダウン症男児である。好きな活動や使いたい道具の支援を要求することがわずかにあるものの教師や仲間への問いかけに対して、ほとんど意思表示することがない。発語がなく、たまに「喃語」のような声を出すことがある。また、仲間との集団活動は好んで参加している様子が見られる。例えばみんなでダンスを行うとき、できるポーズを真似しつつ周りを見ながら笑顔を見せることがある。また、友だちの学習態度や特徴的な行動を真似ることから、周りの行動に関心が高いといえる。

昨年度、発声のタイミングが分かるように発声と身振りを合わせた動きの指導を継続的に行った。その発声と身振りを「朝の会」の呼名や学習の終わりの「感想発表」で促すと、生き生きとした表情で模倣の様子が見られた。

A 児にとって周りの仲間との関わりが、達成感や所属感を生み、学習意欲につながると考える。つまり、学習意欲の高まりは、自らやりたいことを意思表示したり、自発的に行動したりする等の、主体的に活動する素地になると考えた。

1 児童観

6年1組は、4名学級で男子2名、女子2名が在籍しており、日常生活の指導、自立活動、生活単元学習を学級で行う。また、遊びの指導、生活単元学習の一部を6年2組、5年生と合同で行う。さらにクラブ活動やコーポレーションタイムでの他学年、他学部との協働学習を行っている。

A児は、普段の活動で目的行動を行うことがほとんどなく、教師や友達に促されて行動することが多い。人前で注目を集めることは好きで、「今日の振り返り」など発表の場面では嫌がらず前に出て身振りなどの表現を披露することができる。一方、人から注目を集めたいために粗暴な行動に出ることもあるので、人との望ましい関わり方もスキルとして身に着けたい力である。

A児は、ダウン症の状態から生じる知的遅れや微細運動の不器用さ、左耳の重度の難聴がある。そのため、聴覚から得られる情報を認知し、行動することに困難さを抱えていると考えられる。

2 題材観

本題材「先生と一緒に遊ぼう」は、A児の発達段階からコミュニケーションや人間関係の形成に必要な自己と他者とのやりとりを楽しむ内容になっている。

本題材の初めに音声を視覚で捉えることができるアプリを導入している。そこでは、自分の声や先生の声と比較テレビ画面の映像の変化を楽しみつつ、発声を促す狙いがある。

次に、これまで教具として活用してきた「シャボン玉遊び」を引き続き行う。シャボン玉遊びは、手軽でA児も好きな活動の一つである。そこでは、A児にとって主体的な活動が出てくると予想される。また、予想される行動に教師の同調（動作、発声）、要求の代弁を行い、やりとりすることができると考える。さらに呼気訓練としての要素の大事なポイントである、息を「長く吹く」ことで、たくさんのシャボン玉ができる達成感を味わわせたい。

3 指導観

本時の具体的な指導内容・方法については、乳幼児コミュニケーションアセスメント・指導プログラム(CAP)を参考に構成している。

	レベル・発達年齢 ＊網掛け相当レベル	TSCプログラムの課題シートによる具体的指導法 ＊網掛けは現在の指導内容及びA児の課題対象内容（生活年齢の誤差を含む）
要求伝達系	レベル1・0～3カ月	視線などによる要求に気づきましょう。（大人と一緒に対象物を見る。）
	レベル2・4～6カ月	物へ手を伸ばして要求を伝える。（要求のリーチング）
	レベル3・7～9カ月	手を伸ばすこと（リーチング）による選択。気が付きにくい要求行動に応じましょう。 （大人による動き）「イヤ」という気持ちを伝える。
相互伝達系	レベル2・4～6カ月	大人の視線に気づいて同じ物を見る（共同注視）
	レベル3・7～9カ月	歌を歌ってあげましょう。追いかけっこをする。（相互あそび）
	レベル4・10～12カ月	バイバイをする（大人の模倣あり）バイバイをする（指示のみ）
	レベル5・13～15カ月	ごっこあそび。手渡しでみせる。（大人による動き）絵本であそびながら指差しを使う。 日常生活の動作を模倣する。
言葉理解系	レベル2・4～6カ月	音や声のする方向へ向く
	レベル3・7～9カ月	動作や出来事に関する話しかけをしましょう。大人が指したものを見る。
	レベル4・10～12カ月	「～にあげて」がわかる。名前を呼ばれて返事をする。禁止のことはわかって応じる。
	レベル5・13～15カ月	物の名称がわかる。「一緒に見ているものについて言及する。」（文脈の中で話しかける。）、物の名称がわかる。「ボール遊び」（文脈の中で意識する。）
	＊生活年齢の誤差 レベル7・16～18カ月	生活の中で繰り返される行動の流れがわかる。物の名称がわかる。（複数の中から選択する。）
言葉表出系	レベル1・0～3カ月	声かけをする。（大人による動き）
	レベル2・4～6カ月	身体・感覚あそびをしよう。（粗大あそび）
	レベル3・7～9カ月	身体・感覚あそびをしよう。（反応を引き出す）動作に伴った発声・ジェスチャー
	レベル4・10～12カ月	ことばの（音）の模倣をする。摂食を通して口唇の機能を高める。（日生で行う） 物の名称を言う。（欲しいものママ、パパ等）

A児は、相手との関わり自体を楽しむ簡単なノンバーバルコミュニケーション「指差し」等、生活の中で使

う5つ程度の「名称」「動作」を理解している。特に音声言語理解では、レベル4であるにも関わらず、朝の身支度での連絡帳入れ、エプロン・お手拭き準備やトイレでの用足し手順など日常生活の流れをわかるレベル7の部分を持ち合わせている。これは、経験を積み重ねた学習から身に着けたものと思われ、生活年齢からくる誤差が生じて発達しているものと推測される。しかし、相手に自分の要求を伝える力や音声での感情表現については育ってないと考えられる。例えば、自分が使いたいものを近くの人をお願いする行動に移りにくいのは、要求対象の大人を同調や共感関係として十分に認識していないからと捉えられる。そのことから、要求対象者を意識する関係づくりや感情の表現を高める感覚遊びが重要になってくると考えられる。

前回の検証授業の反省から、より遊びの要素を取り入れた自立活動を構成する。また、内容構成を「発声」呼気訓練「長く吹く」の2点に絞り、A児がゆとりをもって活動できるものにした。その中で、自発的なコミュニケーションの場面を予想し、児童の行動のやりとりの中で主体的に活動する力を育んでいきたい。

IV 題材名 「先生と一緒に遊ぼう」

V 題材の目標

- 1 先生と教具を使ってやりとりを楽しむことができる。
- 2 教具に興味を持ち、自発的に活動することができる。
- 3 「お願い」につながる発声、身振りの表現を教師に合わせて行うことができる。

VI 指導計画 総授業時数9時間（週1～2時間） その他（生活単元学習4時間） 本時

時数	題材	内容
1	声と身振りで表現しよう (アセスメントを含む)	・簡易聴力検査（紙、鈴、玩具、大太鼓） ・発声の状況把握
5	声と身振りで表現しよう	・マイクを使った発声訓練 ・発声と身振りの模倣ダンス ・呼気訓練（蛇笛、吹き駒、ロウソク消し、シャボン玉遊び） ・絵カードマッチング ・歯ブラシ口腔内リハビリ
4 生単	先生やお友だち、先輩に必要なことを伝えよう。	・学級共同学習（コーポレーションタイム）にて「挨拶」「お礼」「返事」「お願い」の場面での表現活動
3	先生と一緒に遊ぼう。	・アプリを活用した発声練習 ・シャボン玉遊びを活用した呼気訓練

VII 本時の指導 （9/9時間）

1 本時の目標

- (1) アプリやシャボン玉遊びに興味を持ち、自発的に活動することができる。
- (2) アプリを活用して声を出すことができたり、シャボン玉遊びの中で吹き棒に息を長く吹いたりすることができる。

2 研究対象児童の実態と自立活動の指導内容

実態把握から具体的な指導内容までの流れを図1に示す。まず、自立活動の六つの区分(図1ア)に整理し、そこから指導目標(イ)や具体的な指導内容(エ)と関連付けた。本研究では、主に「具体的な指導内容」の①から③を基本としながら学習を進めていくこととする。

図1 (ア)

項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態把握	・体温調節が苦手。	・好きな音楽が流れるとリズムをとり楽しむ。	・他者の様子をよく見ているが、不適切な行動が見られる。	・周りの様子をみて同じ行動をとろうとする。	・投・歩・登等の粗大運動ができる。 ・色塗り、シールを貼る等の微細運動が苦手。 ・模倣ができる。	・発語がなく、意思表示がほとんどない。 ・左耳の難聴を抱えている。

(イ)

指導目標	・他者と関わる喜びや楽しさの中から、共有する対象としての他者を認識させる。 ・発声・身振りを使ってコミュニケーションの手段を習得させる。
------	---

(ウ)

項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目		(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1)他者との関わりに関する基礎にすること。	(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

(エ)

具体的な指導内容	① 感情表出につながるような教具を活用しつつ教師と共感する活動を行う。	② 視覚優位のわかりやすい学習内容を作成し、本人の活動ベースに合わせて学習を行う。	③ 場面に応じたコミュニケーションの手段を表現させ自発性・積極的な行動を喚起させる。
----------	-------------------------------------	---	--

3 本時の展開

時刻	学習内容	教師の動き○ 指導上の留意点＊	児童の活動内容（ 内）、児童のつぶやき・動き（☆）及び指導の手立て（※）	
			A児の様子	準備物
9：45	①アプリを楽しむ	①教師がアプリに向かって楽しく声を出している様子を見せる。	教師が楽しそうにアプリを使っているのを見る。 ※A児がそばにいる前で、積極的にアプリに向かって声を出す。	ビデオ 三脚
1回目 アプリ時間 (15分)	・声の大きさをみてみよう。 (自分の声、先生の声)	○A児が興味を持ち始めたら、アプリをさせてみる。	※授業開始時にタイマー（15分）を用意し、スタートする。※要求のリーチングを促す。 (15分後いったんアプリ終了、アプリとシャボン玉遊びの二者選択させる。)	タイマー
2回目 二者選択後の活動時間は10分	・いろいろな声を出してみよう。 「ア」（短い発声）、「アー」（長い発声）、「マ」「バ」（破裂音）等 ・曲のリズムに合わせて声を出そう。	＊音声が入り易いように椅子に座らせて姿勢の安定を図る。 ○発声できた時には、大いに褒めつつ教師も楽しんでいる姿勢を見せる。	※二者選択は合計2回予定 ☆A児がI p a dに興味を示し、画面を見る。 ☆A児の動きを見守りつつI p a dを見て教師をみたら「I p a d使いたいんだね。」代弁（発声・身振り促し）を行い、I p a dを渡す。その際、発声・身振り表現（要求）をしていたら大いに褒める。 ※教師は、A児が活動の中での行動や言葉に同調したり、言語化（代弁）したりしてやりとりを行う。	C Dデッキ又はアンプ
3回目 の活動時間は10分行う	②シャボン玉遊びを楽しむ	＊興味が続くようなら、引き続きアプリによる。発声を行う。	※「大きな声出せるかな。」「先生の声とくらべよう。」「色々な声を出そう。」（すべて言葉での説明を極力減らし、模倣動作で活動がわかるようにする。） ※教師が「楽しいね。」「大きい声だね。」「すごい上手。」等の感嘆詞を、積極的に表現する。 ※常に注目させたいところへの視線をおくる、指差しを行う、物を見せる、物を渡す、必要な行為の代弁等コミュニケーションを意識した行動を行う。	テレビ
		②少し活動が落ち着いて来たら、教師が洗い場へ移動、しゃぼん玉を楽しそうに吹く。	☆A児がシャボン玉の容器と棒を持ち始めたら一緒にシャボン玉を吹く。 ※A児がシャボン玉に目線をむけたら「シャボン玉がいっぱいだね。」と教師が今の様子を表現する。	I p a d
			☆A児意欲的にシャボン玉を吹く（教師もそばで一緒に吹く。） ※A児が声を出したら教師も同じ発声をして同調する。 ※教師が吹き棒を「長く吹き」たくさんシャボン玉ができるようにする。（すべて言葉での説明をなくし、模倣動作で済ませる。）	シャボン玉液 シャボン玉棒
10：20 (10分)	③片づけ・振り返り ・使った道具を片づける。 ・今日の楽しかったことを動画で振り返る		☆A児も教師の吹き方を模倣する。 ※模倣できているときには、「一緒にできたね。」とすぐに褒め、A児に達成感、一体感をもたせる。 ※タイマーが鳴り、教師の身振り「終わり」の合図でシャボン玉遊びを終了する。終わる1分前に（少し前から）終了を予告する。 ※片づけ終わり次第教室に入る。	その他
10：30			今日の活動の様子を動画で振り返る。	

4 児童の動きの目標及び評価

できた◎ ほぼできた○ 不十分△

児童は、先生と一緒にアプリやシャボン玉を用い、自発的に活動することができたか。

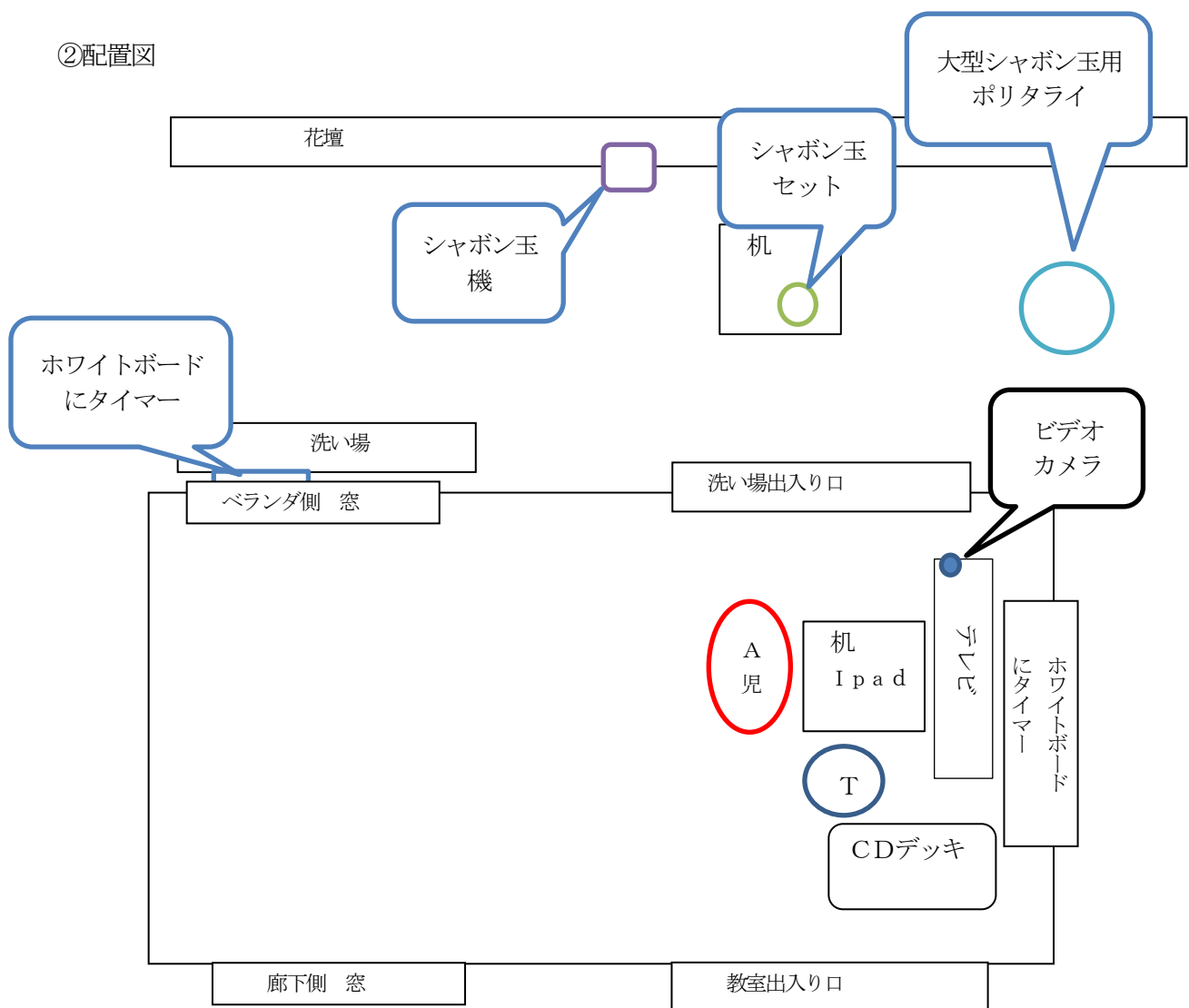
()

児童は、アプリを活用して声を出すことができたか。()

シャボン玉遊びの中で吹き棒に息を長く吹いたりすることができたか。()

5 教室配置図及び教具

②配置図



授業者の評価

授業者の評価			◎適切	○やや適切	△改善が必要
項目			評価	備考	
① 題材と研究テーマとの関わりがみられたか。					
② 題材の目標、本時の目標は適切であったか。					
③ 個人の目標は適切であったか。					
④ 授業の展開は適切だったか。					
⑤ 指導形態は適切だったか。					
⑥ 児童への支援は適切であったか（タイミング、声かけ、動き等）					
⑦ 場の設定は適切だったか。					
⑧ 教材・教具は適切だったか。					
⑨ 時間の配分は適切だったか。					
⑩ 個人目標の達成状況の確認と次時の学習内容をどうするか					

8 検証

検証項目	検証の方法	結果
児童が教師とのやりとりを楽しんでいたか。 ・自発性 ・リーチングの行動 ・感情・意思表出	行動観察	
本時の目標を意識して指導することができたか。 ・題材設定 ・教材・教具・環境設定 ・教師の動き等	授業者の反省	